

# 保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録： コムボン・チャーム、コムポート

北川 香子

## はじめに

筆者は以前、保護国期のカンボジアにおける医療事業の導入過程を検討した [15/16]。その際、各地の理事官府からの定期報告書中に、村落レベルでの感染症情報があることに気づいたが、紙幅の関係上、施設や人員の配置、理事官府の政策等に記述を絞り、具体的な状況を紹介できなかった。研究の手がほとんど及んでいない史料中に何が書かれているのかは、実際に読んで初めて判明することであるので、歴史研究者が提供しない限り、他領域を専門とする研究者がこの情報の存在を知ることは難しいであろう。そしてコロナのパンデミックのただ中にある現在、感染症に対する現地社会の歴史経験を明らかにしておくことには意味があると思われる。そこで本稿では、コムボン・チャーム Kompong Cham とコムポート Kampot の定期報告書から、天然痘、コレラ、ペストに関する情報を整理して提示する<sup>1</sup>。

コムボン・チャームは仏領インドシナを南北に貫く交通の動脈、国際河川メコンの沿岸に位置し、保護国化後に著しく発展した地域である。コムポートは仏領インドシナでは辺境であるが、タイ湾岸に位置し、タイや島嶼部東南アジア海域世界に直に接する、外界に開けた地域である。また理事官府定期報告書は、その情報源となった現地人地方官人の報告、フランス人植民地官吏の報告等がまだ見つからないので、現時点では現地村落社会に最も近い史料ということが出来る。しかも1880年代後半から1929年前半まで、長期間の情報が集積されている点も有用である。なお1918～19年にパンデミックを引き起こした「スペイン風邪」に関しては<sup>2</sup>、2地域の報告書中にインフルエンザに

---

<sup>1</sup> マラリア等の熱病も、特に森林地区には恒常的に存在し、多数の死者を出していたが、具体的な件数が報告されることは稀である。さらに赤痢、麻疹等の報告もあるが、この3つに比べて報告頻度と死者数が少ないので、紙幅の関係上、本稿では割愛した。

<sup>2</sup> 1918年3月初旬に発生した第1波は、6月に蘭領東インドに到達した。中国では5月に流行が見られた。8月以降の第2派は、9～10月にかけてインドや中国に拡大し、蘭領東インドやフィリピン、日本や日本統治下の台湾、朝鮮でも流行した。推定被害状況はインドネシアで死者1.5百万人、死亡率30.6%、フィリピンで死者7万～9万5千人、死亡率6.8～9.2%。[21:94,107]。

関する記載はなく、平時とは異なる死者の報告等も見られなかった<sup>3</sup>。

コムボン・チャームとコムポートでは、1885年に理事官府が開設され、1907年頃には医療扶助Assistance Médicaleの診療所とフランス人医師が配置されている。診療所で対処できない患者は、プナム・ペンかサイゴンに搬送した。特に狂犬病の疑いがある場合は、必ずサイゴンのパスツール研究所<sup>4</sup>に送られている。さらにコムボン・チャームでは1905年のコレラ流行を契機に、メー・スロックMe Srok（村落の首長）宅に「村落の薬箱」が配置された<sup>5</sup>。またマラリア対策として、コムボン・チャームでは1919年、コムポートでは1923年から「国のキニーネQuinine d'Etat」が無償で地域に配備されている [15:177,182,184-185/16:139-140,143,145]。

17世紀初頭の日本では、天然痘に罹ることを「大人事をする」と表現し、「大人」になる為の通過儀礼のようにみなされていたという [17:62-64]。ベトナムでも同様に、「無痘不成人」という諺がある [1:5]。カンボジアでも天然痘は「風土病」であり、人々が慣れ親しんだ「人生の現実」であった。カンボジア人の間では、伝統的な産婆（チモープ *chhmob*）が3歳くらいの子供のほぼ全員に種痘を施した。未種痘の子供たちは生き延びるか否かが不確実なので、「未だ生まれていない」者と見なされた。天然痘を引き起こすのは、子供がないまま、あるいは出産で死亡した女性が化した悪霊で、特に新生児と母親に祟るとされていた [18:56-57]。19世紀半ばの王アン・ドゥオン Ang Duong と謁見したヨーロッパ人たちが、王の顔と胸、そして第1王女の顔にも痘痕があったと記している [14:191-192,196]、彼らは天然痘を経験したことがあったのかもしれない。またベンガル地方の流行病であったコレラは、1817年に世界的流行を引き起こし、タイやビルマ、中国や日本でも流行したが [4:94]、カンボジアにはいつ頃どのようにして入って来たのか知られていない。『王朝年代記』には、アン・ドゥオン王の兄のアン・チャン Chan 王がサイゴンから帰国後、1756年（西暦1834年）午年ボス Bos 月（12月後半～1月前半）望8日に病気となり、厠で下血して死亡したとある [2:181]。これが激しい下痢を意味するのなら、コレラであった可能性も考えられるのではなからうか。またコムボン・チャーム地域では1879年11月の踏査録に、コレラにより「30年前」に放棄されたクラホーム・コー Crâ-hôm-câ [19:209]、「15年前」に放棄されたトゥオル・アンコン Tuol Angkonh [19:221] の2村の記録がある。

<sup>3</sup> 本稿でとりあげる3感染症の他に、当該時期のコムボン・チャームの報告書では、1918年の8月以降デング熱が急速に拡大したが、死者は出ていないこと、1918年の第4四半期にスレイ・サントーを除く全地方でマラリアが流行し、高熱の後に死亡する者が多数あり、その多くが高熱を発して2日か3日で死亡していること、対策としてキニーネを配布したことが記されている。コムポートの報告書では、1918年第2四半期に、囚人が働く道路工事現場で「不可避の」すなわち現場の環境に由来する熱病が発生し、350人中30～35人が発症したことが記されている。

<sup>4</sup> 1891年にサイゴンに種痘研究所が設立され、これが後にサイゴン・パスツール研究所となった。開設当初は雌牛から良質のワクチンを作ることができず、ワクチン製造は困難を極めたが、1892年に水牛を使って良質のワクチンを採取できるようになり、サイゴンの研究所のワクチンがインドシナ全域および近隣諸国に送られるようになった [1:9]。

<sup>5</sup> 文献13はそのカンボジア語の説明書。

## 1. 天然痘

### (1) コムボン・チャーム

史料	史料年月日	
9	19010709 <sup>6</sup>	種痘師巡察、種痘数はコムボン・シエム Kampong Siem <sup>7</sup> 2132、スレイ・サントー Srey Santhor 2606、カン・ミエス Kang Meas 936、トボン・クモム Tboung Khmum、チューン・ブレイ Cheung Prey、コッ・ソテン Kaoh Soutin 多数。
	190205m <sup>8</sup>	スレイ・サントーで天然痘発生。コッ・アンダエト Kaoh Andaet で何件か。住民はマレー人とチャーム人の医師に薬を求める。地域在住のチャーム人医師から治療許可申請3件 <sup>9</sup> 。
	190206m	チャーム人とマレー人の医師が理事官府来訪、治療と種痘の許可申請、許可せず。諸方面からの申請により、彼らが病気の治療に通じていることは認識、特段の処置を講じて彼らの医療を阻止する必要はないと考える。
	190408m	チューン・ブレイで何件か。真の流行の様相なし。
	19050228	チューン・ブレイで何件か。水の質の悪さが主な原因。
	19050430	チューン・ブレイで流行の衰え。
	19050531	地域の西と北で相変わらず多くの死者。人口200人のチャムカー・スヴァーイ Chamkar Svai 村で大人と子供50人以上が感染。この地区では毎年種痘巡察を行うべき。
	190608m	理事官府の現地人種痘師が多数の巡察。種痘2037回。
	19060924	現地人種痘師および補助種痘師が多数の巡察。種痘1739回。
	19061220	種痘1265回。
10	19080108	12月AM <sup>10</sup> の医師がスレイ・サントー巡察、子供1898人に種痘。コムボン・チャームで民兵と村の子供約350人に種痘。
	190801m	巡察1回目は河沿い、モック・コムプール Muk Kampul、クサチ・カンダール Khsach Kandal で子供814人に種痘。2回目はコムボン・シエムとチューン・ブレイの奥地で子供1237人に種痘。
	19080301	チューン・ブレイ知事交代、2月AMの医師の巡察中止。
	19080401	3月10～16日チューン・ブレイ巡察、子供1452人に種痘、内クローチ Krouch 394、スダウン・チェイ Sdaeung Chey 254、タン・クラサン Tang Krasang 215、トラブ Trab 215、メー・プリン Me Pring 104、バーティエイ Batheay 270。概して種痘の受容は良好。
	19080501	大河左岸でコレラ流行、AMの医師はチャムカー・ルー Chankar Leu 巡察を実施できず。
	19080601	5月30日AMの医師がチャムカー・ルー種痘巡察、未踏査の村々訪問。

<sup>6</sup> 数字は西暦の年月日。例えば19010709は1901年7月9日。

<sup>7</sup> 定期報告書中での地名のアルファベット表記には揺れがある為、本稿では1998年センサス報告書の表記で統一した。

<sup>8</sup> mは月報の略。

<sup>9</sup> カンボジア語の申請書3点を添付。

<sup>10</sup> AMは医療扶助の略。

19080701	AMの医師がチャムカー・ルー巡察。1回目はチャムカー・スヴァーイまで。2回目は北部、コムボン・チャームからハンチェイHan Cheayまでのメコン右岸、コッ・サムラオンKaoh Samraongの島を含む。ハンチェイ、コッ・ベイ・ペイKas-Bey-Pey、キエン・チレイKien Chrey、Alich (?)、コッ・トレンTren、クバルKbal・コッ・サムラオン、チョンChong・コッ・サムラオン、コッ・ルオンLuongで子供618人に種痘。
19080801	医師が事故で休職、大河沿岸とトンレー・トーチTonle Tochの巡察実施できず。
19080901	奥地は浸水の為巡察できず。
19081101	AMの医師が巡察。1回目はメコン右岸、コムボン・チャームからモック・コムプール地方南端まで、子供1774人に種痘。2回目はトンレー・トーチ右岸、スレイ・サントーのピエム・プラトノPeam Prathnuohからプレーク・チルークPrek Chrukまで、子供834人に種痘。住民たちは動物の世話に忙しく、子供たちの種痘に配慮する余裕なし。
19081201	プレーク・コムボン・シエム、モック・コムプール、ピエム・チー・カンPeam Chi Kang、トンレー・チナンChnangの巡察はヨーロッパ人患者の治療の為12月に延期。
19090101	コムボン・シエム西部巡察、ミエンMien、メー・ミエンMe Meangの中心地と周辺で子供512人に種痘。
19090201	クサチ・カンダールの島で子供461人に種痘。
19090301	AMの医師の健康状態が悪く、巡察できず。
19090401	長く中断していた巡察再開。現地人種痘師によりチューン・ブレイ1230、コムボン・シエム871、AMの医師によりメコン沿岸194、チャムカー・ルー770、計3065回の種痘。
19090501	AMの医師がスレイ・サントーの高い部分を巡察、子供1596人に種痘。
19090601	スレイ・サントーとクサチ・カンダール巡察、子供951人に種痘。
19090701	AMの医師の健康状態が非常に悪くフランスに帰国、6月巡察なし。
19090801	カン・ミエスとモック・コムプールで巡察、中国人220、アンナム人60、カンボジア人383人に種痘。コムボン・チャームの大人と子供90と合わせて753回。
19090901	メコン左岸、クサチ・カンダールとスレイ・サントーで種痘巡察。19村落で種痘2920回。
19091001	コッ・ソテン諸島とコムボン・チャームの下流、ピエム・チー・カンまで医師が巡察。子供500人以上に種痘。コムボン・シエムの1村で天然痘1件、村全域および周囲で種痘。多くの大人、特に女性や結婚適齢期の娘たちが接種に来た。初接種であることを確認。
19091101	クサチ・カンダールのプレーク・ルオンPreaek Luong村で天然痘2件、シットー・カンダールSithor Kandalから流入。AMの医師を派遣、未拡大と確認。プレーク・ルオン村では2か月前に種痘。プレーク・ピエム・チー・カンとプレーク・モック・コムプールでトンレー・サーブTonle Sapまで種痘巡察。この時期はサムパンsampan (船) を使って訪問が容易。
19091201	コムボン・シエム巡察、大人と子供1850人に種痘。
19100101	スレイ・サントーで何件か。シットー・カンダールから来た大人1人が原因。隔離と村の全員に種痘。

19100201	ピエム・チャー・カン、ロカー・カオンRoka Kaongで天然痘続く。これらの村の子供たちは1か月前に種痘。病気は外部から流入。AMの医師は地区左岸の村々訪問、スレイ・サントーのトレイTuri、プレア・ヴィヒア・スオPreah Vihear Suorkとトンレー・トーチ右岸の村で種痘900回。
19100301	AMの医師が説明できない再発。地区内の全村落、特に両岸の村落は年内に何回も種痘。サイゴンからコムボン・チャームまで輸送する間に酷暑の為ワクチンが損なわれたと認めざるをえない。村落当局は種痘失敗を多数報告。ロカー・カオンとピエム・チャー・カンでは300回以上の種痘。コムボン・チャームでは民兵、監獄、学校、村で種痘、計250回。
19100401	繰り返しの種痘にも関わらず、コムボン・チャームで天然痘3件。マレー人地区で大人に発生。この村では250回以上の種痘。AMの医師は地区の北、チャムカー・ルーで種痘巡察。現地人看護師がクサチ・カンダールとコッ・ソテンの島々で種痘巡察、子供600人に種痘。
19100501	コッ・ソテンの島々、チ・ハエChi Haerとピエム・チャー・カンで子供約750人に種痘。
19100601	何度も種痘を行った中心地でまだ天然痘が発生。全感染地点で種痘。特にクサチ・カンダールとチ・ハエ。大人と子供1000人程に接種。
19100701	同月中2回、多数の種痘にも関わらず、ほぼ全域で流行、死者あり。医師によると周辺地区特にトボーン・クモムからの流入と、サイゴンから運ばれるワクチンの効果が失われている為。何年もの間流行は発生していなかった。
19100819	スレイ・サントー、チューン・プレイの流行は完全に消滅したらしい。地区内の様々な村でマレー人医師が種痘。彼らを理事官府に召喚、AMの医師が彼らの手法の危険性を説明、ヨーロッパの種痘の利点を強調、ヨーロッパの手法の普及と効果的な予防の為、彼らにワクチン配布。種痘数チューン・プレイ1765、スレイ・サントー 441。
19101006	8月にチューン・プレイ地方で11件。コムボン・シエムで死者4人。コムボン・チャームはなし。民兵に近いブン・コクBoeng Kok村で3件。全て種痘・再種痘等の予防処置。
19101107	コムボン・チャームは感染を免れる。コッ・ソテン諸島のコッ・ペンPenで10月前半に発生、再種痘1回で完全消滅。マレー人医師4人がワクチン請求、子供732人に種痘。
19101208	コムボン・チャームの村で未種痘の子供1人感染、死亡。コムボン・シエム51件、モック・コムプールの4件、死者2人。メコン沿岸のピエム・チャー・カンからモック・コムプールの南境界まで巡察、8村で種痘1100回。マレー人医師が子供929人に種痘。
19110109	38件、死者3人。内コムボン・シエムのコッ・サムラオン、スレイ・サントーのプラム・ヤムPram Yam村で各13件。主に未種痘の、低年齢の子供か大人が感染。12月にマレー人医師が理事官府の許可下で子供326人に種痘。種痘看護師がクサチ・カンダールだけで1018人に種痘、そこでは何件かの散発的な発生。1か月間の種痘総数1490。
19110208	コムボン・チャームでマレー人に3件。死者7人、内コムボン・シエム1、スレイ・サントー 6、他3地方なし。子供142人に種痘。
19110308	コムボン・チャームの村で死者2人、子供247人に種痘。中国人住民は今まで反抗的であったが、今後は種痘を受けるであろう。1月に死者11人。種痘計1061回、診療所65、コムボン・チャーム266、コッ・トレン15、コッ・サムラオン20、アムピルAmpil 625。

	19110403	全地方で天然痘発生、看護師がクサチ・カンダールで大人と子供1000人以上に種痘。
	19110503	巡察2回。1回目はコムボン・シエムで1201、2回目はスレイ・サントーで1458、計2659回種痘。奥地に派遣した看護師は種痘数を水増し報告する傾向。メー・スロックたちの書類によると地域全体で死者26人。
	19110603	5村で死者25人。クサチ・カンダールで子供947人、チューン・ブレイで子供750人、計1697人に種痘。
	19110708	天然痘は地区内に根強い。種痘は1910年8月なし、9月なし、10月779、11月2029、12月1490、1911年1月142、2月1318、3月1234、4月2741、5月1627、6月979の計13409回。ワクチンを与えたマレー人医師3人による種痘を含む。地域内の死者115人。
	19110804	死者10人、内スレイ・サントー2、モック・コムプール6。コッ・ベン（コッ・ソテン）で何件か発生、医師が急行、子供260人に種痘。マレー人医師がスレイ・サントーとトンレー・トーチ両岸で1290人に種痘。
	19110906	コムボン・チャーム上流のコッ・ベイ・ベイとコッ・サムラオン群島、クサチ・カンダールの2回巡察、種痘624回。マレー人医師がフランスのワクチンで行った種痘を合わせ、計1394回。
	19111009	医師が入院患者の治療でコムボン・チャームに留まり、巡察なし。マレー人医師が種痘。マレー人医師が越境して種痘、プレイ・ヴェーンPrey Veng理事官府から抗議。
	19111107	チ・ハエ（スレイ・サントー）、ロカー・カオン、ブレイク・ダムバンPreaek Dambang（モック・コムプール）、コッ・ソテン（コムボン・シエム）、トンレー・ベツTonle Betの中心地で散発的な発生。種痘782回。診療所のワクチンとフランスの手法で種痘するマレー人医師とカンボジア人医師1人の実施分を加えて1395回。流行なし、散発的、死者あり。
	19120104	12月に2件、コムボン・チャームとモック・コムプールで1件ずつ。チ・ハエとコムボン・チャームの診療所で、Thai-A-Apのワクチンを用いて種痘、成功例なし。AMの医師はチャムカー・ルー（コムボン・シエム）の低人口地域を巡り、643人に種痘。理事官府が認めたマレー人医師の種痘325回。12月中に計968回。
11	19120614	コムボン・チャームの村で2件。内1件は学校、感染を防ぐ為すぐさま患者を隔離。4月チューン・ブレイ種痘巡察で子供539人に種痘。トボン・クモム種痘巡察ではスオンSuong平原の主な村を訪問、現地人当局の無関心の為子供231人のみの種痘。先月末トボン・クモムで大巡察。ヨーロッパ人未踏の地域を踏査。種痘441回、4月より増えたが訪問村落の人口にはまだ見合っていない。この地方はAMにとって全くの新規であるので想定内。3か月間で種痘1193回、大多数が成功。
	19120917	巡察10回、種痘4310回。
	19121216	巡察4回、種痘2720回。1912年の種痘総数12761回。
	19130327	1月に天然痘がバライBarayからミエン（コムボン・シエム）に流入。ミエンで感染した1家族がコッ・アンダエト（スレイ・サントー）に直接持ち込み、かなり大きな流行。1月5件、死者なし。AMの医師はスレイ・サントー沿岸を巡察、100件以上の発生と死者8人を確認。コムボン・チャームのベストの為巡察1回のみ。子供828人に種痘、内496は医師自身が種痘。

1913第2tr <sup>11</sup>	メコン沿岸ではまだ天然痘があるが、重要な中心地には届かず、猛威となっていない。クラチェ Krachehとコムボン・チャームの医師が種痘巡察、トボーン・クモムで子供3000人に種痘。同地方は今までかなり反抗的だった。
19131223	種痘に抵抗しているトボーン・クモムで医師が種痘。スオン、Vihea-Tintim (?)、チョプChob、マクモンMakmongとトンレー・ベットで子供187人に種痘。
19140402	モック・コムプールで79件。AMの医師を現場に派遣、種痘巡察、以後発生なし。
19141214	クラチェで数件、種痘看護師派遣。死者なし。小流行の開始時点で阻止。多数の現地人クルー Krou (医師) が医師の前に現れ、ワクチンを請求、備蓄分を与えた。このことは、カンボジアで種痘が一般的な方法となっていること、現地人が少なくとも天然痘に関してはヨーロッパの方法を受け入れていることを示す。
19150315	メコン沿岸でかなりの猛威。医師はクラチェの2地方で種痘巡察。サイゴンに緊急要請したワクチンが着き次第、河の兩岸の全村落を訪問。何人かのマレー人医師による治療に重大な欠点、トボーン・クモム知事に監視、報告を命令。
19150615	第1四半期に猛威をふるった天然痘は阻止されたらしい。4月にクム Khum (行政村)・サムボー・ミエス Sambuor Meas、アムビル、クララー Krala、5月にコッ・ソテン、チ・ハエで種痘巡察。4月に民兵キャンプ、民兵と家族、全4人に種痘。6月にモック・コムプールで種痘巡察。
1915第3tr	医師自身と現地人種痘師が天然痘の発生地点巡察。
19160314	1月4、6、7、8、18日コッ・ソテンの島々、5日チ・ハエ、18、19日クラチェ、24、25日ピエム・チャー・レアン Peam Chileang、ストウン・トラン Stueng Trang、クラチェで種痘。
19170321	スヴァーイ・ミエス Svai Meas (コムボン・シエム) とロカー・トヴィエ Roka Tvear (スレイ・サントー) で死者何人か。AMの医師が感染村落に向かい、住民に種痘。早急に流行を阻止。
19170615	天然痘が発生したコムボン・シエムとモック・コムプールを医師が巡察。チャムカー・ルー訪問は不衛生な地区ということで荷車の御者が躊躇し延期。
19170920	クサチ・カンダールの14クムとチューン・プレイのクム・ソーサエン Sour Saenで流行、種痘。クサチ・カンダールで死者4人。クラチェ医療ポストを何度か訪問。
19171217	トボーン・クモムで10月種痘1584回。11月と12月に医師と看護師が地域全体を回る。
19180315	地方の様々な地点で発生。コムボン・チャームとスレイ・サントーで死者何人か。AMの医師と看護師が感染地区に行き、多数の種痘。
19180615	地域内の様々な地点でかなり強い流行。ピエム・チャー・カンで始まり、急速にコムボン・シエムとスレイ・サントーに拡大、62件。その他4～5月に未報告の発生が100件以上、死者約30人。特にクヴェト・トム Khvet Thumとプレーク・クラバウ Preaek Krabauで酷い。未種痘の者と昔種痘を受けた者が感染。全地区で多数の種痘。5月末にクヴェト・トム以外では減少。クヴェト・トムでは再発、死者9人。現在は減少、消えつつある。

<sup>11</sup> trは四半期報の略。

	19180915	コムボン・チャームで5月29日に診療所に運ばれたアンナム人女性が最初、6月3日に死亡。9日に第2の大人の患者、18日に死亡。7月末に囚人2人が感染。村内に病源があることは明白。メー・クム（行政村長）は管轄下に天然痘はないとしたが、7月30日に2人の埋葬許可願いが理事官府に出され、村の端、中国人村と屠場の間のアンナム人の小屋群での感染が判明。訪問すると子供に14件、内3件は長の家だった。村内で多数の種痘。流行はまだ阻止されていない。現在までに25件、死者8人。奥地ではモック・コムプール、ピエム・チー・カン、ソー・コン Sour Kong、トローク・チロウ Thlok Chrov、チャムカー・ルーの高地、チャムカー・クローチ Krouch で発生。8月にモック・コムプール知事が何件か発生と報告、種痘。全地域で種痘、奥地の流行は阻止されたい。何日も前から発生報告なし。8月種痘1673回、再種痘2978回。
	1918第4tr	コムボン・チャームで9月死者1人、民兵。囚人に2件、死者1人。村で死者12人。患者は8月よりも少ない。10月民兵に死者1人、村で死者3人。11月なし。9月以来減少、現在では阻止。奥地ではセンソン Senson、アムビル、サムラオン Samraong、セーク・ユム Sek Yum で稀に数件発生。河の増水と続く浸水によって流行が減少。医師と看護師は疫病が到達した村々で種痘2225回。一般的に人々は疫病と種痘に無関心。セーク・ユムのメー・クムが種痘に子供を集めず5\$の罰金。
12	19190315	1918年末に熱病と天然痘の流行で状況悪化、この四半期も改善せず。1月死者18人、2月死者11人。地区の全地域、主に沿岸村落で発生。先の四半期の多数の種痘にも関わらず天然痘が拡大した理由はワクチンの質と、このワクチンの使用により住民間に発生した反ワクチンの雰囲気。1月にプノム・ベンから来たワクチンを使ってコムボン・チャームで種痘897回、初接種269、再種痘628。子供全員の検査で63回が陽性と判明、全体の7%、初接種の23%。2月にサイゴンから直接来たワクチンを使い、チ・ハエで成功100%、ピエム・チー・レアンで100%、ピエム・チー・カンで70%、Kas Kokで65%。サイゴンから直接来たワクチンとプノム・ベンで冷蔵庫に保管されていたものとで明確な差。種痘は12月コムボン・シエム296、モック・コムプール849、1月スレイ・サントー 5227、コムボン・シエム897、2月スレイ・サントー 874、トボン・クモム387、コムボン・シエム1762、計10292回。
	19191223	種痘1399回。
	19200320	数件発生。
	19200615	種痘4113回。
	19200927	種痘575回。
	19240401	天然痘が唯一の流行。医師があらゆる方策で阻止を試みている。多数の種痘。1924年3月3日の書簡で述べた通り、近年の天然痘の増大はワクチンの質に起因。住民たちは種痘を受けた人が天然痘で死ぬのを見ている。良いワクチンと良い保管方法が必要。
	19240725	多数発生、特にチューン・プレイ、コッ・ソテン、スレイ・サントー。プレーク・ポー Preaek Pou からクローチ・チマー Krouch Chhmar までの大河沿岸、カン Khand (地区)・トゥオル・トラーチ Tuol Trach、コムボン・シエム、チューン・プレイで多数の種痘巡察。種痘は4月10361回、5月10213回、6月5243回。
	19241006	地方の様々な場所で10件。
	19241226	コッ・ソテン島で何件か。すぐさま種痘。散発的。



	19250630	何件か散発的に発生。種痘5207回、内初接種2398。結果は極めて満足。
	19250930	大河沿い、チューン・ブレイ、スオンで種痘5810回、内初接種2664。チョプ、トマー・ベチThma Pechr、ピエム・チューンPeam-Choengのプランテーションのクーリーに種痘とコレラワクチン接種、同じ機会に周辺住民にも接種。
	19260930	死者7人。種痘9039回、内初接種2748。
	19261231	8件発生。種痘計2713回、内ピエム・チー・レアン688、メー・モットMemot 1513、残りがコムボン・チャーム周辺。
	19270415	1月にカン・ブレイ・チョー Prey Chhorで3件。2月と3月にカン・メー・モットのクドルKhdol、タン・克蘭Tang Krang (チューン・ブレイ)、スヴァーイ・クLEAN Svay Khleang (クローチ・チマー) で発生。四半期全体で16件。種痘10066回、内初接種3250。
	19270729	41件、死者4人。種痘9134回。
	19271108	種痘2861回。
	19280427	天然痘なし。種痘6156回。
	19280731	天然痘なし。種痘5204回。
	19290420	コムボン・シエム5件。スオン8件、死者4人。ピエム・チー・カン3件、死者2人。ピエム・チー・レアン2件。コッ・ソテン南2件。スララプ Sralap 1件、死者1人。トラブ2件。プレイ・チョー 4件、死者2人。トラペアン・オーロン Trapeang Ohlong 8件、死者4人。ブレイク・ポー 2件。種痘17324回。
	19290802	多数の種痘にも関わらず、様々なクムで発生。

## (2) コムポート

史料	史料年月日	
5	18861031	多数発生。ワクチンがない。
	18870329	何件か発生。
	18870430	医師が種痘開始。サイゴンから送られたワクチンの質が悪い。
	18871031	医師は1か月半で子供500人近くに種痘。
	189606m	チューク Chhukで多数、死者多数。コムポートで数件、死者1人。
	189607m	まだ流行、比較的軽い。
	18970131	種痘師はまだコムポートに来ない。
	18970401	現地人は民族によらず、熱心に種痘師の召集に応じている。5km離れたコムポートとクバル・ロミエス Kbal Romeas の中心地だけで4000人以上に種痘、子供だけではなく若い男女が大勢自発的に集まった。ヴィエル・レーン Veal Renh、スラエ・アムベル Srae Ambel とトマー・サー Thma Sa では僧侶の弟子たちが来た。バンティエイ・ミエス Banteay Meas 地方全体とコムポートとピエム Peam の一部が未訪問、医師の派遣を希望。
	190001m	種痘巡察。
	19010131	子供多数に種痘。
	190102m	子供839人に種痘。
	19010831	ピエム知事が種痘師の来訪を懇願。天然痘発生なし。雨季の為陸路も海路も巡回困難。乾季の初め、12月にコムポート種痘巡察を依頼。

	19020102	1899年12月以来種痘師がコムポートに来ていない。
	19020302	コムポートでの種痘師の巡察は5月14日に遡る。来訪を希望。
	19020506	種痘師到着。
	19020604	コムポート地方で死者何人か。種痘師は到着翌日にプノム・ベンに戻った。再度派遣を望む。
	19020704	5月の医師の到着翌日にプノム・ベンからの召喚で中断された種痘巡察の完遂を望む。バンティエイ・ミエスとコムボン・サオムKompong Somでは2年間種痘が行われていない。
	190207m	チャウドックChaudocポストの医師がコムポート巡察、カエブKaeb岬地区で子供約200人に種痘。
	19020901	ほとんど消滅していた天然痘がトラウイ・コツ Traeuy Kaohの島とスナム・プラム・ピー Snam Prampir/Snam Ampil村で再発。多数の死者が最近種痘を受けており、人々の種痘に対する信頼が低下。種痘師がコムポートを通過した際、広告していたにも関わらず、接種に来た者は少なかった。
	19021031	コムポートの町周辺でまだ何件か。最後の事例は散発的、流行は収束したらしい。
	19021231	コムポート近隣で何件か、死者あり。
	19050131	同じ地方で発生していた天然痘とコレラは消滅。コムポートで何件か発生したが、流行ではない。
	19050303	2月に種痘なし。医師は20日間不在。
	19050403	3月に種痘なし。医師は1か月不在。
	19050427	コムポートで周辺の村々の子供160人に種痘。
	19050526	コムポートで死者1人。ピエムになし。種痘なし。
	19050630	コムポート周辺で子供30人程に種痘。
	19050728	コムポートと周辺で子供185人に種痘。
	19050829	トラベアン・レアンTrapeang Reangとチュークで軽い流行。子供2人死亡。ポストの医師がコムポート地方で周辺の村々の子供1040人と、要望によって親の何人かに種痘。長期間種痘師が来ていない。
	19050930	種痘なし。
	19051028	サムラオンSamrong村（ヴィエル・レーン）で何件か、死者3人。コムポートの医師が子供250人に種痘。
	19051220	カンボジアの種痘師がピエム、バンティエイ・ミエス、コムポート地方で子供2705人に種痘。
6	19060215	トラベアン・トムTrapang Thum村と理事官府近くのコムポートの村で何件か。2か月間種痘なし。
	19060423	医師がスラエ・アムベルとヴィエル・レーンで種痘巡察。
	19061020	ヴィエル・レーン（コムポート）で何件か。理事官は当該地区に行くRouillod氏にワクチンチューブを何本か預けた。医師は多数のヨーロッパ人患者の治療の為にコムポートに留まった。
	19070220	コムポート周辺で何件か。多数の人々が診療所に種痘に来た。医師は1000人程を診た。
	19070817	ピエムで何件か、死者あり。医師はカエブに種痘に行く。

保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

19071030	コムポートの医師はルバウクLbaeuk、ロヴィエンRovieng（ター・カエウ境界）地域巡察で子供800人に種痘。この地域は長年種痘師の訪問なし。
19071130	中心地での毎週の種痘の他、医師は11月にコムポート、ピエム、バンティエイ・ミエス巡察。
19071231	天然痘なし。医師はピエムで種痘して成功、コムボン・サオムでは不成功。
19080131	コムポートの医師はコッ・コンKaoh Kongで種痘巡察。村々が離れていて貧しく、人口が希薄な為、子供は少なかった。
19080229	トラウイ・コッで1件、コムポート診療所で治療成功。ヴィエル・レーンの子供1860人に種痘。中国人の家族から多くの抵抗。
19080331	ヴィエル・レーンとコムポート・スダムSdamの2回の種痘巡察で、医師は子供951人に種痘。中国人の消極的抵抗。
19080430	医師はコムポートとピエムで2回の種痘巡察、子供1041人に種痘。ピエム知事が中国人種痘師1人の通過を報告、彼の搜索を命じた。彼の通過後にピエムで流行発生。
19080531	ピエム、バンティエイ・ミエスとコムポートで子供1153人に種痘。
19080630	天然痘なし。子供14人に種痘。
19080831	医師は病院におり、種痘延期。
19081001	コムポートの医師がプノム・ベンの病院におり、種痘なし。
19081031	コムポート地方北部の種痘巡察で子供1735人に種痘、ほぼ全てがカンボジア人。
19081130	コムポート地方の多数の巡察で医師は子供960人に種痘。多くの村で、中国人に子供を連れて来させる為に、逮捕すると脅す必要があった。
19081231	医師が種痘2228回。
19090302	ピエムで死者1人。医師はコムボン・サオム地方巡察中。
19090410	ピエムで死者3人。医師が種痘。コッ・コン865、コムポート130人の子供に種痘。
19090504	子供1154人に種痘、内381人が2回目。
19090604	拘留犯に2件。
19090901	7月末にルバウクとトラベアン・レアン（コムポート地方）で子供483人に種痘。
19091204	コムポートで子供1046人に種痘。
19100105	コムポート地方で医師により子供1783人が種痘あるいは再種痘。
19100204	種痘なし。医師はコレラ発生の為コムポートに留まった。
19100303	種痘なし。医師はコレラ発生の為都市中心地に留まった。
19100404	医師は3月末にコムポートで種痘巡察。スマチ・デーデンSmach Daeng、Mon On、スラエ・チャームSrae Cham、Don Koi、プレイ・ノップPrey Nob、ヴィエル・レーン、コムボン・スマチKampong Smach、トゥック・ロオクTuk L'akの村を訪問。種痘918人、内初接種519、再種痘399。918回は1908年最後の巡察の1097回よりも少ない。現地人当局の住民召喚が遅れた為。
19100808	7月13日にピエム知事の息子が死亡。同様に感染した他の子供2人は助けられた。医師を現場に派遣。散発的に1件のみ。
19110110	医師はバンティエイ・ミエスとピエムで種痘巡察。3000人近くに種痘。

	19110310	医師はコッ・コン地方で種痘巡察。500人に種痘。
	19110508	医師はピエム地方で種痘巡察。500人に種痘。
	19120615	死者6人、内コムボン・ノンKompong Nong 5、ルバウク1。
	19120630	4年間毎週種痘、年平均7764回。コムポートのコムボン・ノン村だけで小流行、死者2人。ター・カエウTakaevとカンダールKandalからの移民が原因。
	19121222	1912年11月24日～29日チューク、クラン・スナイKrang Snay、スラエ・クノンSre Knong、ロヴィエン、トラペアン・レアン、ルバウクで551回、12月14日～20日スラエ・チエSrae Chea、バーニエウBaniev、ワット・アンVoat Angk、ワット・ポー・チュムVoat Pochum、タニTani、ムロームMroum、バンティエイ・ミエス、トゥーク・ミエスTuk Meas、コムボン・トラーチKampong Trach、ダムナック・チャンアウDamnak Chang'aurで3553回の種痘。
	19130709	11月ルバウク1052、12月バンティエイ・ミエス5129、2月ピエム1006、3月ポビル・ポックPopil Pok 161、4月ヴィエル・レーン1004、計8352回の種痘。ワクチンの質に問題なし。4月にプレイ・ノップで死者1人のみ。
7	19140919	医師はルバウク、ポビル・ポック、ストウン・カエウStueng Kaev、カムチャイKamchay、ブン・ブレアBeng Pras村で種痘巡察。
	19141215	医師は11月にプレイ・ノップ、ヴィエル・レーン、トゥック・ロオク等で種痘巡察。
	19150103	8月27日に医師はコムポート地方北西を巡察。現地人800人程に種痘。2回目の巡察でコムボン・サオムとの境界までの象山脈の麓を訪問、コッ・トーチKaoh Touch、トゥック・ロオク、コムボン・スマチ、オー・スヴァーイA Svay、スラエ・トムSrae Thum、ヴィエル・ミエスVeal Meas、ヴィエル・レーン、バンティエイ・プレイBanteay Prey、プレイ・ノップ、リエムReam、スマチ・デー、スラエ・チャームの中心地。21日間、1500人程に種痘。
	19150612	コムポート（中央）で種痘巡察、クム・チューク、トンホンTon Hon、コムボン・トラーチ、トゥーク・ミエス、カエプ。
	19151217	医師はコーチシナ国境ハーティエンHatien方面までのバンティエイ・ミエス地方で多くの種痘巡察。コムポート地方のルバウク、バーニエウ方面で種痘巡察。
	19160316	医師はコッ・コンとスラエ・アムベルで長い種痘巡察、約1500人に種痘。
	19160617	医師はコッ・コンとコムボン・サオム、バンティエイ・ミエス、コムポートで種痘巡察。
	19160915	医師は3回の種痘巡察。6月22日コムポートの中心地。囚人、民兵、学校の生徒。23日病院。26日午前プレイ・スロクPrey Srok。27日トゥック・ヴルTuk Vil寺院、センコールSeng Kol (?), マック・ブランMekprang、カムチャイ。午後スナム・プラム・ピー。7月26日クバル・ロミエス。27日ダムナック・チャンアウ、ボン・トゥックPong Tuek。28日カエプ。3回目はバンティエイ・ミエス地方、コーチシナ国境、プノム・カンランPhnom Kanlang (?) 辺り。
	19161230	10月末トゥーク・ミエス、プノム・カンラン、コッ・トムThom、ポータスイPotassui (?) で種痘巡察。約2000人に種痘。11月コムポート地方、ブレイク・トナオトPreaek Tnaot、トゥック・ロオク、コッ・トーチ、スナム・プラム・ピーで種痘巡察。

保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

19170317	トンホンでかなり強い流行。1件目発生から対処。中心地から1km離れた所に隔離キャンプ設置。隔離用の藁小屋を互いに20m離して建設。キャンプへの接近は厳禁。病人を治療する看護師のみが入れる。民兵が周囲を見張り、検疫警戒線をなす。キャンプに入った者は全員、退出前にクレジル水のシャワーを浴びる。全家屋を石灰で消毒。理事官が住民たちに、病人は全員連れて行く、隠した者は訴追されると警告。死者はすぐさま埋葬、穴には生石灰を撒く。当局はキャンプの出入りを登録。AMの医師は種痘巡察を組織。1月にコッ・トム、カントー Kanthaor、ポータスイ、バンティエイ・ミエス、コムボン・トラーチの村々訪問。流行消滅。50～60人がキャンプに入った。死者10人程。
19170620	3～4月AMの医師がコムポート地方のコムボン・ノン、ダムナック・チャンアウ、カエプ、バンティエイ・ミエス地方のトゥーク・ミエス、タニ、スラエ・カンSrae Kan、Kompong Pobap、Prey Rang、ポータスイで種痘巡察。
19170919	7月AMの医師がバンティエイ・ミエス（トゥーク・ミエス、タニ）で種痘巡察。
19180108	9月28日クバル・ロミエスとダムナック・チャンアウ、29日ボン・トゥックとコムボン・トラーチ、10月1日カエプ、12月8日コムボン・パーイ Kampong Bay、29日コッ・トーチ、31日コーン・サットKoun Satv（コムポート）で種痘巡察。
19180709	プノム・カンラン、トゥーク・ミエス、コムボン・トラーチ周辺で何件か。AMの医師が対策、何度も種痘巡察。拡大を防止。
19180923	医師は8月にクム・コムポートとブレイ・スロックで種痘巡察。
19190930	9月コムポート3件。内1件は民兵、すぐさま隔離。医師はボーク・コー Bok Kor、カエプ、コムボン・トラーチ、トゥーク・ミエス、トンホンの様々な村や集落で種痘巡察。種痘1482回、再種痘1708回。
19200331	何件か。重大ではない。発生の度に種痘。
19200705	5月22日～26日コーン・サット、プノム・ヴォアPhnom Vor、チューク、トラペアン・レアン（コムポート）で種痘巡察。6月6日と7日にバンティエイ・ミエスのクム・タニとアンコー・チェイ Angkor Cheyで散発的に何件か。予防として種痘。
19201210	種痘2388回。
19210304	シヤム湾岸地域で流行初めに医師が種痘巡察。素晴らしい成果。
19220106	理事官とAMの医師が1921年11月19～25日コッ・コン巡察。多数の天然痘の報告。種痘巡察。
19220331	定期的な種痘巡察の他、感染が発生する度に巡察。AMの医師は1月にトポーン Thpongで長期間巡察。
19230615	種痘巡察を繰り返したにも関わらず多数の発生、大部分が致死性。
19230915	かなり多い。四半期に50件、死者11人。主に20～40歳の大人が感染、大半は子供の時1回しか種痘を受けていなかった。種痘の回数がかかなり多いにも関わらず、特にコムポート地方とバンティエイ・ミエス地方で天然痘は風土病化。稀にしか種痘を受けない大人が感染。四半期の種痘数3284回、内2854がバンティエイ・ミエス。
19231215	先の四半期より多い。地域全体で60件、死者17人。種痘数が多いにも関わらず、特にバンティエイ・ミエスで天然痘は風土病化。この四半期で56件、死者16人。感染地域で多数の種痘巡察。種痘4013回、内バンティエイ・ミエスで3000。

	19240315	バンティエイ・ミエスで発生続く。64件、死者15人。大人と子供が同数。感染地区で何度も種痘巡察。種痘13845回、内11340がスロックSrok (地方)・バンティエイ・ミエス。
	19240615	4月ダムナック・カントウオトDamnak Kantuot 9件、死者4人。コッ・カビックKaoh Kapiで多数、詳細な数は不明。病源がかなり大規模な為、現地のフランス・カンボジア学校を閉鎖。バンティエイ・ミエスでは5月始めから流行が弱まる。バンティエイ・ミエスに種痘看護師派遣、プログラムに従って種痘。バンティエイ・ミエス地方を6つに分け、それぞれ月12～15日の巡察、医師が監督する看護師が種痘実施。第2四半期の種痘はバンティエイ・ミエス2237、コッ・コン1619、コムボン・サオム994、コムポート511、計5361回。
	19241215	バンティエイ・ミエス地方12件、死者4人。患者は未種痘だった。種痘6266回。
	19250315	8件、死者1人。種痘9276回。
	19250615	第2四半期の初めに軽い再発。種痘はコーン・サット561、クバル・ロミエス1060、トンホン370、コムボン・トラーチ250、リエムと周辺755、コッ・コン352、計3348回。
	19250915	コムポート1区と2区で何度も種痘、計4452回。7月8日午前センコール、午後マック・プラン。7月9日午前プレイ・ボックPrey Pok (岸とプノム・ベンの道の間)、午後ブン・ブレアBeng Preah。7月10日午後カムチャイ。7月11日午前スナム・プラム・ピー。
	19251215	天然痘の報告なし。種痘4384回、995が初接種。
8	19260315	Snam Crebau 2件、死者なし。種痘3039回。
	19260615	第2四半期1件、回復。コムポート初接種126、再種痘74。コッ・コン初接種1718、再種痘407。コムボン・サオム初接種2518、再種痘546。計初接種4362、再種痘1027、合計5389回。
	19260915	天然痘なし。バンティエイ・ミエスとコッ・コンで種痘2693回。
	19261215	天然痘なし。補助医師と看護師がドン・ペンDong Pen、プームPhum (村)・プランPrang、プーム・トラペアンTrapeang、ヴィエル・ブオンVeal Buong、クラム・ボックKrampok、Prim Teng、Pobeng、Kompong Soloeu、トゥック・ロオク、コムボン・スマチ、スラエ・トム、Saui、チューン・コー Cheung Kouで種痘巡察。初接種2390回、再種痘1686回。
	19270315	天然痘なし。種痘はコムポート939、カエプ667、リエム328回。
	19270615	天然痘なし。チュークとタニの間で初接種2388、再種痘2961、計4349回。
	19270915	天然痘なし。6月コムボン・トラーチとトゥーク・ミエスで375回、7月カエプで277回種痘。
	19271215	天然痘なし。リエムで移民45人に種痘。
	19280315	コレラワクチン接種の為、この時期に常に行われていた種痘を切り捨て。住民たちはしばしば2つのワクチン接種を混同、将来的に種痘に対して有害と懸念。水疱瘡が天然痘と誤報告された為、カン・プレイ・ノップで種痘巡察、カエプやリエムの移民と合わせて種痘2643回。
	19280915	サムラオンとスラエ・アムベルで巡察、種痘4348回。スラエ・アムベル1358、サムラオン600、アンコー・チェイとプラ・プノムPraphnum 500。

	19281215	地方の様々な地点とコムポートの町で種痘5930回。天然痘なし。
	19290315	種痘3795回、1463が移民。
	19290615	チュークで1件(回復)、トゥーク・ミエスで1件(回復)、トンホンで1件(回復)。種痘4165回。

『カンボジア人と彼らの医師』によれば、地方での移動種痘が開始されたのは1896年である [18:55]。しかしコムポートの定期報告書には、既に1887年に医師による子供たちへの種痘の記録がある。医療扶助の開始後は、両地域で全域を網羅するような種痘巡察が計画的に行われている。子供たちを召集するのは現地人地方官人の責務であり、住民側の積極的な反発や妨害はなく、あるとしても消極的なサボタージュ程度で、地域社会で尊崇を集めている仏教僧については、能動的に受容した事例のみが報告されている<sup>12</sup>。ワクチンはサイゴンから供給されていた。コムポートでは1887年にワクチンの質が悪いという報告があり、コムボン・チャームでは1910年に熱暑によるワクチンの劣化、1919年にプノム・ペンの冷蔵庫に保管されていたワクチンの劣化による効力の喪失が報告されている。

初期のコムボン・チャームでは、地域在住のチャーム人・マレー人種痘師の活動が見られた。カンボジアでチャーム、チヴィエChvea (ジャワの意味、フランス語訳ではマレー人)と呼ばれる人々はムスリムである。おそらくフランスの植民地医療に先行して、島嶼部からイスラーム社会を経由して種痘技術が伝播していたのではないかと考えられる<sup>13</sup>。理事官府は彼らにヨーロッパ式の種痘技術を指導し、ワクチンを与えて種痘を行わせた。コムポートもチャームとチヴィエが多く分布している地域であるが、チャーム人・マレー人種痘師の活動は記録されず、中国人種痘師に関する否定的な報告のみが見られる。マレー人の種痘技術に関しては、『カンボジア人と彼らの医師』に、1902年のフランス人医師の報告が引用されている。それによると彼らは、「錆びたペンナイフ」で腕を切開し、傷の上に「天然痘ウイルスを染み込ませた小さな綿玉」を置いていた。謝礼は子供1人当たり1ピアストルで、半分は現物払いできた。なお無資格の現地人による種痘は、1907年に禁止されている [18:57]。従ってコムボン・チャームの事例は、例外的なものということになる。

<sup>12</sup> 『カンボジア人と彼らの医師』は、植民地当局が主導する種痘vaccinationに対する現地人の抵抗があったとしている。1901年のあるフランス人医師の見解では、伝統的な治療師が種痘variolationによる収入を失うことへの懸念が、抵抗の理由として挙げられている。また別の医師は、フランスの種痘を受け入れることは「一種のフランス化Francification」であり、彼らの「民族的特質national character」を失うことであるとして、敬遠されたと説明している [18:58]。

<sup>13</sup> 1714年の報告では、トルコには腕種法の人痘法があり、コンスタンチノーブルでは40年程前から行われていたという。またバタヴィアに人痘法が導入されたのは1779年、牛痘法は1804年 [20:2,9]。

## 2. コレラ

### (1) コムボン・チャーム

史料	史料年月日	
9	18991130	工事現場で死者何人か、クーリーたちを解雇。
	19000701	コッ・ソテン死者2、カン・ミエス死者4、スレイ・サントー死者23、コムボン・シエム死者4、チューン・プレイ死者118、トボーン・クモム死者18人。
	190209m	10月（ママ）の間にコムボン・チャーム地域で多くの死者。スレイ・サントー死者30、チューン・プレイ死者10人程、モック・コムプールの境界地域、カン・ミエスで死者10人。
	190210m	チューン・プレイ死者31、トボーン・クモム死者3人。その他の地方では発生なし。流行は拡大し、メコン河を遡っているらしい。
	190211m	唯一の黒点はコレラの疫病、今月中に死者200人以上。河岸では増大し、現在ではクラチェ沿岸まで到達したらしい。スレイ・サントー死者179人。バライBarayのメー・スロックがコレラで死亡。流行は減少しつつあるらしい。トボーン・クモム死者39人。コッ・ソテン死者36人。流行は減少しつつあるらしい。カン・ミエス死者若干名。コムボン・シエム死者若干名。チューン・プレイ死者18、サムボン・チェイSampong Chey村の僧侶3人と住民15人。コムボン・チャームで最近8件、死者3人。
	190212m	コレラがまだ猖獗を極めている。チューン・プレイ死者23、トボーン・クモム死者29、コムボン・シエム死者123、スレイ・サントー死者5、コッ・ソテン死者57人。
	19050131	公共事業監督のLembezat氏が死亡。少し後にRostaing夫人が死亡。コムボン・チャームに派遣された医師は、ヨーロッパ人の間にも現地人の間にも流行の兆候は見られないとする。大河沿いではいくつかの現地人の中心地が感染。最も酷い村はチ・ハエ、ブレイク・ター・ノン Preaek Ta Nong、モハー・シエクMohasiek、ブレイク・ダムボーク Preaek Dambouk、ブレア・ブラサップPreah Prasab、ブレイク・コイ Preaek Koy、ロカー・アー Roka Ar。これらでは死者が1日に3～4人、1月中に100人程。発生当初から積極的な予防策。理事官が感染した中心地を巡察。メー・スロックたちに消毒薬、コレラ薬とカンボジア文字の使用法説明書を配布。コレラ薬にはいくらかの効果あり、理事官府に請求が殺到。
	19050228	衛生状況は先月から改善していない。散発的な死者が主な中心地で継続。先月まで感染なしだったコムボン・チャームでも子供2人と大人1人が死亡。予防処置を常に更新、コレラ薬と消毒薬を間断なく配布。市場に最初の青い果物、特に現地人が好むマンゴーが現れるとぶり返しに用心。
	19050331	主な中心地、トレイ、ピエム・チー・カン、チ・ハエ、コムボン・チャームと奥地で再発。理事官府が薬を無償配布、住民たちは自発的にコムボン・チャームに受け取りに来る。
	19050430	4月を通じて発生なし。大河沿いではまだ死者何人か、徐々に散発的になっている。
	19050531	5月の前半は熱暑が激しく、コレラ再発、特に奥地。水不足により事態悪化。月後半の雨で地域の衛生状況はかなり改善。チューン・プレイの状況が最も厳しい。
	19050901	チューン・プレイの衛生状況は大いに改善。



保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

10	19080501	5月3日付特別報告書378番の通り、4月15日頃にチ・ハエトレイ間で流行発生。AMの医師が現地調査、基本的な衛生規則違反による直接感染と判明。5月1日時点で70件、死者40人。流行発生当初より感染した村々で積極的な方策。スレイ・サントー知事が病人のいる小屋を全て訪問。多数の現地人がクメールの薬を請求。メー・スロックたちはこの薬を最初に服用すると回復すると報告。
	19080601	4月にスレイ・サントーの中央、プレーク・ロムデーPreaek Rumdengで発生、4月の初め頃チ・ハエで死者4、6日頃クサチ・カンダールのロヴィエLveaで死者4、クバル・コックで死者1人。モック・コムプールのスヴァーイ・アムピエSvay Amphear村とプレーク・ター・セクTasek村で死者発生。月末頃チ・ハエで死者3人。プレーク・ポーとプレーク・ロムデーのメー・スロックが衛生策をとらなかつた為罰金10ピアストル。流行は消滅しつつある。AMの医師は多数の死者が出ているクラチェに行った。
	19080701	ストウン・トランから来た人が発症、すぐに診療所で治療したが同日中に死亡。この人がいた場所を消毒。コムボン・チャームに近いストウン・トランとトボン・クモムで猖獗、地域内に拡大。コムボン・チャームでは上流から汽艇が到着する度に対策。奥地ではコムボン・シエムのコック・ベイ・ベイ6件、死者2人。スレイ・サントーではクニューンKhnhoung村4件、死者3人。流行防止対策をとる。クサチ・カンダールでも何件か、死者はなし。医師がチャムカー・ルー巡察でコレラに関する指示を伝達。対岸のチロー Chirou村（クラチェ）で猖獗。
	19080801	コムボン・チャームのマレー人村死者3人。散發的。住民を救う為の予防策がすぐさま取られた。
	19080901	先月は散發的に発生、今月は1件のみ。
	19081001	コムボン・チャームでも奥地でも発生なし。消滅したらしい。
	19081201	死者41人。コムボン・シエムが最も酷く、死者23人。
	19090201	プレア・ブラサップで散發的に発生。
	19090301	散發的な発生、季節の緑の果物の摂取が原因。
	19090401	メコン沿岸で散發的に発生。
	19091201	水位の低下とともにメコン沿岸の村々で何件かのコレラ性の下痢。
	19100101	この時期は現地人の間であらゆる病気のぶり返し。赤痢、気管支炎、主にマラリアとコレラ。コレラ流行を止められない。ロカー・カオン、メコン沿岸のいくつかの村で散發的に発生。AMの医師が急行、病源を発見できず。間もなく地区全体の死者が100人に達した。
	19100201	メコン沿岸の人口集中地で猖獗、厳密には流行の様相ではない。感染した中心地を巡察したAMの医師は、同じ村の中での散發的な発生に、感染の相関関係が全く見られないと報告。メー・クムたちは定期的かつ迅速に村落内での患者発生を報告、彼らの薬局に必要な薬剤を請求。
	19100301	いくつかの散發的な事例以外、ほとんど死者を出していない。
	19100401	先月よりも減少。1人が診療所に運ばれ、熱心な治療にも関わらず死亡。
	19100601	メー・クムたちが何件かの発生を報告。特にチ・ハエの中心地。AMの医師を派遣したが病源発見できず。
	19100701	何件か。
	19100819	複数の村が散發的な何件かを報告。7月中には流行なし。

	19100907	奥地とコムボン・チャーム、主に大河沿岸で発生。53件、死者38人。チューン・プレイでは最も辺鄙な地方、クラダスKradas村とメー・プリン村で死者11人。浅く埋められた遺体から、降雨によって飲料水の水源に細菌が入ったことが原因らしい。
	19101107	31件、死者6人、大半は散発的。スレイ・サントー知事が何件かの発生を報告。主に河岸。同地方のブレイク・ター・ノン村で小流行、16件、死者6人。
	19110109	10件、死者10人。
	19110208	スレイ・サントーを中心に、理事官府に多数のコレラ薬請求。
	19110308	1月に死者22人。
	19110403	致死性コレラが何件か、コムボン・チャームと地方道路26号線7km地点の間で発生。賦役たちは現場に道具類を残したまま村に戻った。数人の賦役が治療を受けるが回復せず。コムボン・チャームの現地人の間に多数発生、大半が死亡、うち何人かは即死。理事官府が河の中程遠くまで水を汲みに行く為の歩道橋設置。全地方でコレラ発生。
	19110503	コムボン・チャームで勃発したコレラは終息、近隣地方の賦役が現場に呼び戻された。メー・スロックたちの書類によると、今月の地域全体の死者27人。
	19110603	死者32人、内28人がコムボン・シエム。
	19110708	昨年よりも弱い流行。5地方で死者172人。コムボン・チャームでも発生。チューン・プレイから地方道路26号線の建設に集められた多数の賦役が感染、10人が診療所あるいは家への搬送中に死亡。
	19110804	コレラなし。
	19110906	コッ・ルオンとコッ・サムラオン死者8。コッ・ソテン死者1。クサチ・カンダール死者1。スレイ・サントー死者2人。同地方のトンレー・トーチ沿岸ロヴェー Loveで発生。
	19111009	クサチ・カンダール死者1人。コムボン・シエム3件発生。
	19111107	報告なし。
	19120104	住民たちは地区全体に一斉に襲い掛かった流行に打ちのめされている。月末から多くの死者。コムボン・チャーム死者6。モック・コムプール死者15。クサチ・カンダール死者24人。
11	19120614	1～2月の流行はこの4半期中に減少。コムボン・チャームで軽症2件、死者1人。水位の上昇とともに発生。1件目は通常通り、5月末に出現。感染予防の為にあらゆる衛生対策をとれるよう、コムボン・チャームのヨーロッパ人にコレラ発生を警告。知事たちにすぐさま通達、予防策を指示。主にクラチェ周辺で15件、被疑者Ho-Van-Thuong以外は全て死亡。
	19120917	AMの医師は極めて辺鄙な地域にも入り込み、複数民族の全住民に治療。6月に猖獗を極めた流行の最中、彼の治療が希求され、称賛された。医師の技能は多くの患者を回復させた。治療薬を配布した多数の村落から、医師が推奨した治療の効果と、医師の献身を証明する請願書が理事官に寄せられた。6月と7月の激しい流行の死者1843人。
	19121216	流行なし。
	19130327	死者11人。水位の低下とともに流行するのは通常通り。
	19140615	トボン・クモムのメー・モットに大規模なコレラの病源出現。看護師に必要な薬剤と指示を与え、現場に派遣。29件、死者9人。

保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

	19150615	5月始め、小規模な流行が2か所、コムボン・チャームから20kmのトラベアン・プレア Trapeang Preah で発生。最初の雨の後、地区の多くの地点で発生。クラチェ、チローン Chhloung、クローチ・チマー、ストウン・トラン、ピエム・チー・レアン、コムボン・チャーム、チ・ハエ、ピエム・チー・カン、ロカー・カオン、クサチ・カンダール、カンダオル・チルム Kandaol Chrum 等主な中心地に消毒薬備蓄。0.20センチグラムの過マンガン酸カリウム3000包と説明書を地区の全クムに配布。
	1915第3tr	クラチェとトボン・クモムで死者多数。患者の多くが最終局面で診療所に来るので、医師の診察が間に合わない。全地方に薬品と説明書を配布。
	19160314	トボン・クモム6件、死者6人。チョプ、トマー・ベチ、ピエム・チューンのプランテーションで働くクーリーに種痘とコレラワクチン接種、この機会に周辺住民にも接種。
	19161215	スレイ・サントーの南とクサチ・カンダールで何件か。すぐさま積極的な対策。
	19170920	何件か発生、死者7人。
	19171217	クサチ・カンダールの小集落で小流行、死者8人。
	19180315	トボン・クモムのアムピル・ター・ボク Ampil Ta Pok で小規模な流行。9件、死者7人。
	19180615	5月にトボン・クモムで何件か。カオン・カーン Kaong Kang で5件、クム・クラエク Kraek の Chimean で死者3人。
12	19200615	ボーク・コーの囚人による監獄での流行を阻止。
	19220411	1921年に様々な地点で何度も発生したコレラは、この四半期には頻発しなかった。
	19240401	ペストとコレラは散發的な数件のみ。
	19240725	マクモンの民兵キャンプと囚人に何件かのコレラ疑い。コレラワクチン接種。コムボン・チャームの全民兵と囚人にも接種。接種数665。
	19241006	何件かのコレラ疑いがチョプとマクモンの囚人キャンプで発生。
	19250630	コレラなし。
	19250930	チョプ、トマー・ベチ、ピエム・チューンのプランテーションで働くクーリーに種痘とコレラワクチン接種、この機会に周辺住民にも接種。
	19260930	コレラの消滅。スオンで5件のみ。スオンと周辺でワクチン接種数1180。
	19261231	コレラなし。1月後半にコレラワクチン接種開始予定。
	19270415	2月10件、死者7人。3月10件、死者4人。スクン Skoun 1件。植民地道路 1bis号線上の他、カン・ミエスとロカー・カオン近辺で発生。これらは例年通り、コムボン・チャームの流行の発生源。コレラワクチン接種数2893。民兵、監獄、学校でコレラワクチン接種。
	19270729	河沿いの村々。20件、死者11人。コレラワクチン接種数4167。
	19271108	コレラワクチン接種数8356。
	19280427	37件、死者30人。1月34件、2月0件、3月3件。ワクチン接種数24548。
	19280731	101件、死者84人。ワクチン接種数13313。
	19290420	モアン・ダップ Man Dab 2件、死者2人。ブレーク・ポー 4件、死者4人。クララオン Kralaong 9件、死者5人。ピエム・チー・カン 3件、死者2人。スヴァーイ・サチ・ブナム Svay Sach Phnum 35件。プレイ・チョー 2件、死者1人、チ・ハエ 1件、死者1人。ブレーク・ター・ノン 11件。コムボン・チャームの囚人に疑わしい死者1人。ワクチン接種数1956。

(2) コムポート

史料	史料年月日	
5	188601m	マレー人が住むRhlon Nanで1件。
	18860301	月初2件、死者あり。
	18860401	コレラなし。
	18870430	コムポート地方でかなり大規模な流行。死者8人。減少中。
	18900601	1件。
	18900630	1件。
	189401m	コムポート地方の北のトラベアン・レアンとピエム地方のコムボン・トラーチで流行、後者では死者何人か。沿岸の村々は今日まで感染なし。
	189408m	バンコクでコレラ発生。沿岸の諸地方は現在まで感染なし。
	189411m	理事長官の電報を受け取り、コムボン・サオム知事にチャンタブリー Chantabounでのコレラ発生を伝え、同港と交易する中国人への警告を勧告。同じくスマチ・ポストの長にも伝達、当面の間シャムから来るジャンクを接岸させないよう依頼。コムポートではチャンタブリーからのジャンク到達の連絡がプノム・ドーンPhnom-Dongの請負業者たちからあり次第、理事官自身が行って検疫。全長200km以上の海岸線に真に有効な予防策を講じるのは不可能。
	189412m	今日までコムボン・サオムとコムポートに発生なし。スマチからの情報によるとコッ・コン（シャム）には発生。
	189503m	コムポート地方ではかなり軽度な1件のみ。コムボン・トラーチは感染、何人かの死者が発生、現在は感染者なし。バンティエイ・ミエス地方でもまだ何件か発生。
	189606m	カムチャイ（コムポート）死者3。クラン・スバウKrang Sbau（バンティエイ・ミエス）死者1人。
	189607m	コレラは消滅。
	18970701	コムボン・バーイと近隣の村々で死者35人。民兵2人死亡。昨日も死者1人。
	190002m	コレラあり。
	190003m	コレラあり。
	19000630	ヴィエル・レーンのコムボン・スマチ死者18、スラー・ンゲー Sra Gge 2人、クバル・ロミエス1人。
	190007m	ピエム地方で流行続く。
	190008m	流行続く。
	19020901	ピエム地方、ハーティエン運河の隣接地域で何件か。
	19050131	同じ地方で発生していた天然痘とコレラは消滅。コムポートで何件か、流行ではない。
	19050303	ピエムとコムボン・サオムで死者何人か。
	19050403	先月ピエムとバンティエイ・ミエスの境界上の村トゥーク・ミエスで始まったコレラは4地方に拡大。死者コムポート7、ピエム8、コムボン・サオム4人。
	19050427	コムボン・サオム以外で激しい流行。死者67人、内コムポート15、バンティエイ・ミエス10、ピエム42。
	19050526	雨後かなり減少。コムポート死者13人、ピエムはなし。
	19050829	ピエムでコレラ性の死者2人。

保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

	19050930	死者9人、内ピエム3、コムボン・サオム6、コムポートとバンティエイ・ミエスはなし。
6	19080331	コムポート税関の汽艇Vigilante上で死者1人。死亡した水夫はコッ・コンの無人の浜に埋葬。汽艇は母港ハーティエンで検疫。バンティエイ・ミエス死者27人。他の地方にはなし。
	19080430	ピエムで多数発生、死者5人。コムボン・トラーチに隔離用の藁小屋1棟建設。
	19080531	ピエム知事はさらに死者15人を報告。コムポートでは民兵2人とカンボジア人1人が最近建設された隔離用の藁小屋で治療を受けて回復。拘留犯1人を隔離観察。
	19080630	ピエムで多数発生、死者1人。コムボン・サオム3件。サムラオン死者12人。コムポートでは拘留犯1人死亡。彼がいた監獄は入念に消毒。
	19080731	バンティエイ・ミエス死者39人。流行は消えつつある。
	19081001	流行なし。女性1人死亡。
	19090302	クム・スラエ・チエで流行。住民の多数が近隣の森に逃げた。
	19090410	スラエ・チエ（コムポート）死者10。Trey Kroï（ピエム）死者1人。
	19091104	死者コムポート3、コムボン・サオム1、コッ・コン3人。
	19100105	都市中心地と周辺で流行。12月後半13件。中心地で死者3人。10人が診療所で治療、死亡3、回復3、重症のまま4。他の地方では死者もコレラもなし。
	19100204	コムポート周辺では勢いを減じた。近隣の村々にいくつかの病源が極めて限定的に残っている。
	19100303	8日ほど前に都市中心地と周辺の流行は終わり。カエプKep地区で多数発生。
	19110508	カエプで20件程、死者14人。ピエム知事が電報で、流行が始まり広がりつつあると報告。
	19111209	ピエムとプノム・スルオチPhnum Sruochで出現。現地当局は散発的と報告。
	19120106	ピエムとバンティエイ・ミエスで何件か。
	19120615	昨年11月より流行。知事の報告によると11～5月に死者796人。内バンティエイ・ミエス524、ピエム239、残りがコムポート。この数字は現実より少ない。3月にバンティエイ・ミエス知事が4件の発生を報告し、看護師を派遣した所、遙かに多数であることが判明。バンティエイ・ミエスとピエム、ハーティエン運河とメコンの支流の近くでは改善。コッ・コンとコムボン・サオム、海辺の地方は感染したまま。コムポートでは12月と1月にスラエ・チエとパーニエウ、バンティエイ・ミエスとピエムの境界で数件のみ。5月と6月には中心地郊外で小流行。6月12日時点で22日間に25件、死者17人。中心地は感染したまま。トンホンの道の工事現場も同様。コムポートの中心地に接するトラペアン・トム村、スヴァーイー・トンSvay Tong村では改善。スヴァーイー・トン村では立地を利用して、診療所の隔離用藁小屋に患者を搬送して完全隔離を実行、12月31日より新たな発生なし。トラペアン・トムではこの方法は難しい。カンボジアの田舎では家々が水田の中に散在している為、隔離策は容易。避難所建設、家族の検疫、水場を保護、村の世話で感染した家族に物資を補給、石灰水で消毒、焼却。遺体の焼却もカンボジアの風習には抵触しない。行政府は1件あたり補償金50\$を支給。年平均のコレラ死者50人。今回1000人以上の住民が死亡。

	19120630	コムポート地区はコーチシナ国境にあり、コレラ流行地域である。ピエム、バンティエイ・ミエス、コムポートで猖獗。3地方の死者は2000人程度。医師が現場に赴いて対策。クーリーが400人以上いるクバル・ロミエスとPhnom Asia (?) の現場は防御できた。工事現場から2kmのコムボン・トララーチKampong Tralach村に診療所を設置。コレラは大河の地方から流入。米不足でかなりの人数がコムポートに移動。
	19120915	2000人近くの死者を出した流行は完全に消滅。
	19121222	医師は巡察において、トゥーク・ミエスの中心地が、昨年のコレラ蔓延において唯一とは言わないまでも主な発生源であったことを確認。飲料水の確保の為井戸を掘り、丸天井をつけ、ポンプを使用すべき。
	19130709	1912年初めに猖獗を極めたコレラは、1912年9月に死者20人のみ。(1913年) 6月の死者5人のみ。
7	19170620	5月にGianthaanhでコレラ流行との通知。ハーティエンの行政官から情報を得た後、憲兵をコムボン・トララーチに派遣、調査。衛生対策のポスター貼付。コムボン・トララーチの看護師にしばしばトンホンを訪問するよう指示。現在までのところ、カンボジアでの流行発生は防げている。
	19210604	何件か散発的。
	19220627	4月と5月にコムポートの中心地で浸水に続いて流行。次に周辺の村々や中心から外れた地点いくつかに拡大。当初、発生の報告が遅れたが、少しずつ対策がとられ、満足な結果が得られた。
	19230915	7月と8月にボーク・コーの囚人に3件、散発的で流行性ではない。
	19231225	3件。病院で治療、回復。
	19240615	3件散発。カエプとコーン・サットで死者2人。
	19241215	リエムで下痢と嘔吐が発生。プレイ・ノップとSre Leoで死者2人。リエムから来たクーリーで、下痢と嘔吐の症状があった。血が混じった下痢4件、重い胃腸障害2件、全て回復。死者2人はおそらくマラリアに罹患していたことが理由。何人かの病人が(工事現場から?) 家に戻り、親族と交代した。プレイ・ノップ周辺で同様の胃腸障害。リエム同様プレイ・ノップでも、暑い季節にコレラに変わるか監視することになろう。
	19250315	コレラなし。
8	19260315	コムポートでの最初の発生は1月12日。最初の病源はトラペアン・プレイTrapeang Preyで、急速に感染拡大、コムポート、コムボン・チェンKampong Chen、コムボン・スマチ、スラエ・トム、コムボン・トララーチ、クラン・ドーンKrang Daung、トゥーク・ミエス、タニ、ダムナック・カントゥオトに次々と拡大。コムポートでは予防策のおかげで1月25日感染終焉。現在流行は消えつつあり、トゥーク・ミエスとダムナック・カントゥオトにだけ残っているが、数週間前から3件のみ。全ての病源で予防策。リエムとトゥーク・ミエスの道に補助医師を何度も派遣、対策(消毒、ワクチン接種、同居人の訪問医療監督等)の為に看護師2人を何度も派遣。感染村落全体でコレラワクチン接種。接種回数は現在までに3000以上。コムポートと周辺43件、死者38人。トゥック・ロオク、コムボン・スマチ、スラエ・トム14件、死者14人。ルセイ・スロクRuessei Srok 3件、死者3人。クラン・ドーン1件、死者1人。トゥーク・ミエス6件、死者4人。コムボン・トララーチ1件、死者1人。タニ2件、死者2人。ダムナック・カントゥオト3件、死者2人。

19260615	<p>第2四半期の間、流行は限定的。プーム・ポー Pou (バンティエイ・ミエス) 3件、死者3人、ワクチン接種60回。ボン・トゥック (バンティエイ・ミエス) 6件、死者2人、ワクチン接種28回。スラエ・チエ (バンティエイ・ミエス) 15件、死者14人、ワクチン接種250回。ロバン・クラスRobang Kras (バンティエイ・ミエス) 3件、死者2人、ワクチン接種35回。コムボン・トラーチ4件、死者2人、ワクチン接種124回。タニ9件、死者8人、ワクチン接種172回。トゥーク・ミエス5件、死者2人、ワクチン接種248回。ダムナック・カントゥオト2件、死者2人。パーニエウ5件、死者3人。トンホン1件、死者0人。計53件、死者38人、ワクチン接種数917。現在では流行は終わっただけ。看護師1人を次々と主な病源に派遣、様々な場所でワクチン接種。接種数675回、量2cc。ワクチン接種総数1592。AMの医師、あるいは看護師1人が補佐する補助医師が全病源を訪問。</p>
19260915	<p>6月コムボン・トラーチ周辺18件、死者14人。7月コムボン・トラーチ周辺10件、死者10人。7月プレイ・スロック1件、死者1人。8月コック・コン27件、死者21人。計56件、死者46人。コレラワクチン接種数2685、内1950がコック・コン。コック・コンに派遣した補助医師が病源と拡大過程を説明。シヤム人クーリーの死者1人がPakhlengの寺院に運ばれた。儀式の食事に参加した僧侶と住民が感染、近隣の村落 (BangkrasopとKasnou) に拡大。コック・カピック、コーン島Ilot Cone、Lemdamと感染村落でワクチン接種。この3か所はこの対策によって防御された。衛生に関する指示および助言を様々な場所に掲示。現在までのところ、ワクチン未接種者のみが感染、住民たちは極めて自発的にワクチン接種に来る。</p>
19261215	<p>コムポートの都市中心地で汚染されたショップハウスと現場の訪問。報告書。</p>
19270315	<p>1月にコムポートの町で最初の発生。町と近郊で続いて5件。奥地になし。当初から予防策。感染家屋の消毒、衛生パスポート、ヨーロッパ人への通知、現地人向けの子防策の掲示、市場の監督、緑の果物あるいは切り分けた果物の販売禁止。感染源の周辺だけに限ってコレラワクチン接種。</p>
19270615	<p>5月25日にコムポートで発生。現在までに13件、12が入院・1は町(で治療?)、囚人8(死者5)・役人2(死亡)・市民3(死亡)。通常処置(病人の隔離、消毒、衛生パスポート、ワクチン接種)。コムポートでワクチン接種620回。</p>
19270915	<p>6月、7月、8月に発生、常に小さな病源。6月コムポートの町死者6、スラエ・チエとPnomleo死者9、ロカー ROKAR死者11、カンダールKandal死者3、スラエ・トム死者1。7月ルセイ・スロック死者3、センコール死者1。8月コック・トーチ死者3、コムポート監獄死者8。スラエ・チエとPnomleo 16件、死者9人。結婚式の食事で感染。小さなコレラの病源では感染は家族内、非常にしばしば食事により発生。特に最初の死者の葬儀の食事が問題。コレラワクチン接種数は6月感染クム872、8月監獄102回。監獄で5月に接種済囚人150人に5件、未接種者100人に4件発生。</p>
19271215	<p>コレラなし。コレラワクチン接種数は10月クバル・ロミエス785、コーン・サット424、コムボン・ノン232、カエブ28、11月トラウイ・コック 142、タデーブTa Deb 141、コムポート326、計1878回。</p>

19280315	<p>12月29日リエムで疑わしい死者1人。1月2日監獄で疑わしい死者1人。2月散発的な流行の始まり、現在も続く。コムポートの町と郊外では3つの病源。2月6日センコール死者1、2月23日町（プノム・ベン由来）死者1人、2月28日町1件、病院に隔離して回復。トゥーク・ミエスの感染源はコーチシナ、2月12日アンナム人女性（サムパン）1人死亡、2月17日死者1、24日死者1、25日死者1、26日死者1、27日4件、死者2人。コムボン・トラーチでは大部分のクムが感染、ただし軽い。スラエ・チェでは2つの病源で10件発生、死者9人。カントー死者1。トンホン死者2。コムボン・トラーチの町3件、死者2人。ブン・サーラー Boeng Sala 5件、死者3人。ロバン・クラス2件、死者1人。リエムの海で死者、散発的な事例。カン・コムポートではコムポートの町、民兵キャンプ、監獄、学校、ボーク・コー、クム・コッ・トーチ、センコール、カンダール、チャクレイ・ティンChakkrei Ting、カン・プレイ・ノップではクム・トゥック・ロオク、ヴィエル・レーン、サムラオン、プレイ・ノップ、リエム、カン・バンティエイ・ミエスとタニでは全クム、カン・コムボン・トラーチでもPhnomleoを除く全クムでコレラワクチン予防接種キャンペーン。住民たちはなぜ何の為にワクチン接種を受けるのかを理解していない。ワクチン接種に住民たちを召集する任を負ったカンボジア人当局は、理事官府の尽力に無関心。約130000人の住民に対し、接種総数10593。</p>
19280615	<p>3月に散発的、家族の小さな感染。コムポートの町では3月2日に、感染した中心地トゥーク・ミエスから来たカンボジア人1人死亡。3月11日安中華食堂の主人1人死亡。3月14日カンボジア人女性1人感染、回復（隔離所に隔離）。3月17日アンナム人1人死亡。3月16日中国人女性1人発症、17日死亡。3月29日中国人1人隔離所で死亡。3月23日病院で中国人老人1人感染、死亡。トラウイ・コッ 8件、回復2人。トゥーク・ミエス3件、死者3人。コムボン・トラーチ1件、回復。ロバン・クラス2件、死者2人。スヴァーイ・トン4件、回復1人。4月、4つの病源。ヴィエル・レーン5件、死者5人。Odonmeas（コムポート）4件、死者4人。コッ・カピック8件、死者5人。カエプ6件、死者5人。全件がワクチン未接種者。5月、監獄でワクチン接種済の者に多数発生。全囚人が収監時にシステムティックにワクチン接種を受けている。</p>
19280915	<p>60件、内14件コムポート監獄、死者発生（内10人元避難民）。スラエ・チャム11件。</p>
19281215	<p>11月末にアンナム人女性1人のみ。コレラワクチン接種数776、11月民兵と監獄で実施。</p>
19290315	<p>3件発生。内2件監獄、11月10日と17日にワクチン接種した囚人2人、2人とも回復。3件目はトンホン、死亡。すぐさま予防の為村でワクチン接種。民兵10人、囚人11人、市民3人が退避、この中に死者なし。コレラワクチン接種数2628、内コムボン・トラーチで1463。</p>
19290615	<p>ボーク・コーの囚人1件。Vy、39歳、1929年1月18日に3ccのコレラワクチン接種。全囚人、民兵、市民（労働者、民兵の妻子を含む）にワクチン接種206回。5月末スダチ・コンSdach Kongとトゥーク・ミエス6件、死者3人。内トゥーク・ミエス（町）5件、死者3人。看護師を派遣して予防策を実施。</p>

報告書を見る限りでは、1912年の流行時の死者数が極めて大きく、コムボン・チャムで6月と7月に1,843人、コムポートでも9月までに2,000人にのぼっている。またコムポー



トでは同年、「米不足」の為「大河」すなわちメコン沿岸地域から多数の人々が流入し、コレラを持ち込んだと説明している。飢饉と疫病が重なり、カンボジア国内で大きな人口移動が生じたということであろうか。また天然痘と比較すると、コレラの方がよりはっきりと、両地域での流行時期が重なっているようである。

両地域に共通して、未熟な果実、特にマンゴーをコレラの原因とする記述がある。タイ湾岸のプレイ・ノップを舞台とするデュラスの『太平洋の防波堤』にも、緑のマンゴーがコレラを引き起こし、毎年マンゴーの季節には大勢の子供が死んでいくという描写があり [3:118]、現地在住フランス人の間で一般的に語られていた説だと思われる。

コムボン・チャームでは初期に、在来の薬と思われる「抗コレラ混合薬」、「クメールの混合薬」を、消毒薬とともに理事官府が無償配布している。チャーム・チヴィエの種痘医同様、在地の医療技術を取り入れることは、当時のコムボン・チャーム理事官か医師の方針であったのであろう。なおワクチン接種はコムボン・チャームで1916年、コムポートでは1926年から行われている。

### 3. ベスト

#### (1) コムボン・チャーム

史料	史料年月日	
10	19071005	チ・ハエから来たらしい人が発症とプノム・ペンの医長が指摘。
	19080901	ロカー・カオン1件。村の衛生訪問が必要。プノム・ペンのベスト感染地区から来た人が関わる散発的な発生。
	19090201	ベスト疑い死の原因解明の為に大河の主な中心地を衛生訪問。最初の事例はビエム・チー・カン、腺ベストのあらゆる症状を呈した少女が死亡。首と顎のリンパ腺腫、熱。患者の住居には鼠の死体あり。衛生策推奨。医師はメコン左岸、Kampo村訪問。同様の状況で死者多数。理事官自身もプノム・ベンからトレイまでのメコン兩岸の村々を訪問、病源探査。村落当局より病気の報告なし。医師はチ・ハエとKampoで以前の死者に関する情報収集。1月23日にチ・ハエで新たな死者。医師がプノム・ベンに検査送付。以来死者なし。
	19090301	チ・ハエでベストあるいは炭疽が疑われる事例多数。医師不在の為確定できず。いずれにせよ必要な予防処置をとり、村々を強固な観察下に置いた。
	19090401	チ・ハエのベストあるいは炭疽は再発なし。おそらく予防処置のおかげ。
	19100401	AMの医師がスレイ・サントーの知事に呼ばれ、死者3人を出したベスト疑いを検査。現場で診断できず。
	19100907	チ・ハエ村に医師が2回赴く。炭疽菌の感染。チ・ハエでは昨年以來かなり一般的。中国人が貯蔵している獣皮の保管が悪い為。
	19110308	コムボン・チャームの村で1件のベスト疑い。医師が必要な予防処置。患者の家の近隣の豚小屋が、都市中心地の境界の外に移された。同じ家に住む現地人を医師が9日間訪問。他の発生なし。

	19110503	モアン・ダップで発生。当初から感染を村内に封じ込める為に徹底した隔離策。町への感染を防ぐ為、住民がコムボン・チャームを訪れる際は事前観察。住民が他村の住民と接触しないよう禁令。医師が何回も現地訪問、治療と汚染地区の完全消毒。モアン・ダップで死滅した家族の最後の生存者である医師Losが、コッ・ダチKaoh Dach（クサチ・カンダール地方）寺院に向かう途中で死亡。近くの住民がすぐに感染、死亡。コッ・ダチ、プレーク・ター・メアクPreaek Ta Meak、Prea En、プレーク・ルオン12件。クサチ・カンダールでも同様の処置。同地方の流行消滅。
	19110603	モアン・ダップの流行は完全消滅。汚染家屋は全て藁小屋、焼却。僧侶の住居も焼却、住職Luk-Krouの家は板造り瓦屋根で大量の書物を保管、知事と住民の要求で残し、硫化炭素封入消毒。
	19110708	モアン・ダップの流行はブノム・ベンから来た患者1人が原因。死者に付添った僧侶たちが病原菌を寺院に持込み、住職・副住職以下僧侶4人と村人21人が感染、全員死亡。治療の為にクサチ・カンダールから呼ばれた現地人医師1人も死亡、同地方で死者10人程。2地方で死者39人。1か月以上死者なし。
	19110804	クサチ・カンダールのバラットBalatの息子がブノム・ベンからスヴァーイ・チルムSvay Chrum（クサチ・カンダール）に来て死亡。新たな発生なし。
	19111107	ルセイ・スロック、モック・コムプールのプーム・トナオトThnotでベスト疑いの死者、医師派遣、別の病気と診断。
11	19120614	モック・コムプール知事から1件報告。医師の到着前に既定の処置（現場の消毒、ロカー・カオン正面の無人島への家族の移動）。医師はベストではないと診断。
	19130327	コムボン・チャームで12月に発生。ブノム・ベンから来た中国人クーリーによる。10件（6件は治療されず、死者6人）。プレーク・ポーで、中国人の汽艇でブノム・ベンから来た中国人1人死亡。モアン・ダップでブノム・ベンの感染家屋から来た女性1人死亡。
	1913第2tr	クラチェで5月にブノム・ベンから流入。10人程の死者、地域は限られる。
	19131223	チ・ハエで腺ベスト出現。今日までで5件。12月4日チ・ハエの蒸留所収入役Nicolai氏死亡。必要な予防処置を決定、下士官1人と現地人衛兵1人を現場に派遣。Nicolai氏の死後、1件しか確認されていない。流行は急速に鎮静化したらしい。
	19140402	コムボン・チャーム3件。即座に積極的な方策、発生初期で流行が抑えられた。
	19150615	ブノンPhnongの地のクム・プー・トゥンPu Tungに腺ベスト発生。死者39人。感染した集落は規模が小さく、焼却、別の場所に再建。
	19160314	チ・ハエとコッ・ソテン16件、死者16人。病源2つ。感染家屋3軒を焼却。隣人たちに注射。現地衛生監督の訪問後、補償金300\$を与えた。流行は阻止されたいらしい。
	19170321	1月ロカー・カオン、ピエム・チャー・レアン、ピエム・チャー・カンで発生、2月特にピエム・チャー・レアンで継続。死者何人か。現地人当局の積極的な予防策とAMの医師の監督により、1日でショップハウスの完全な避難、清掃、クレジル水洗浄、村の清掃。病気は縮小し、現在では完全に消滅。

保護国期カンボジアにおける感染症流行の記録：コムボン・チャーム、コムポート

	19171217	何件か発生。
	19180315	例年通り、プノム・ベンから流入して奥地で何人かの死者。コムボン・チャームでは14歳の子供が診療所で死亡。ピエム・チャー・カンでは1月末に小流行、死者9人。医師の積極的な対応で流行を阻止。
	19180615	3月ピエム・チャー・カンで病源1、積極的な方策、流行を阻止。4月コック・アンダエトで死者1人。5月ブレイク・コーイ寺院でペスト勃発。チャウドックから来た僧侶1人が原因。ブレイク・コーイ寺院の僧侶が看護して感染、村の中に拡大。AMの医師が現場に行き、住居消毒、竹の歩道橋撤去、サムパンを沈めた。5月末、流行は阻止された。死者はブレイク・コーイ27、ロカー・カオン2人。当初カンボジア人は自身で死者を埋葬していたが、埋葬に関わった人々が死亡した為、非常に高価な報酬を支払ってアンナム人5人のグループに埋葬させるようになった。2人が戸口から遺体に接近、1人が前進しながら大量の石灰粉を撒き、もう1人が石灰水を注ぐ。遺体に水を注ぎ、石灰で覆い、顔にアルコールを注ぎ、石灰で消毒。他のアンナム人が石灰で覆った藁を持って入り、手早く遺体を巻いて持ち去る。このグループに感染者はなく、以前の流行生時にも同様の手順で遺体を処置したという。
12	19240401	ペストとコレラは散発的な数件のみ。
	19240725	何件かの天然痘、コレラ、ペスト疑いがさまざまな地域で発生、AMの医師の予防策により散発的に留められ、深刻な流行はない。
	19241006	コムボン・チャーム死者5人。最初の事例は8月の強い浸水の始まりの頃。おそらく水に追われた鼠の集団移動による。衛生委員会召集、病人と死者の監督、ゴミ捨て場を町の遠いところに設置、鼠駆除等。8月始め～9月終わりの5件は散発的で何日も何週間も間が空いている。
	19250630	コムボン・チャーム死者2人。プノム・ベンから来た人の散発的な事例。
	19250930	コムボン・チャームで高水位期に軽いペストの流行（8月に7件）、散発的。医師は1926年5月に住民全員にワクチン接種することを提案。
	19260930	5年ほど前から例年の出現なし。
	19270729	コムボン・チャーム死者4人。ペストワクチン接種369回。
	19290119	クム・モアン・ダップ死者8人、クム・チャー・バルChi Bal死者6人。
	19290420	コムボン・チャーム死者2人。ワクチン接種356回。
	19290802	コムボン・チャームで中国人の間に何件か発生、死者あり。ショップハウスを硫化炭素で消毒。同居人および周辺にワクチン接種。

(2) コムポート

史料	史料年月日	
7	19210604	チュークで小流行。報告に遅れ。メー・クムをサーラー・カエトSalakhet(地方役場)の法廷に提訴。
	19230615	コムポート4月36件、死者34人。5月60件、死者55人。合計して都市中心地73件、内40がショップハウス。数日置いて6月に再流行。6月1～18日16件発生。民兵2人が隔離所に隔離された。ショップハウスでは2件のみ。6月18日までの2か月半の期間に正式確認112件。死亡率94%。強化したウイルス（ママ）が新しい土地で作用したことに起因する非常に激しい流行。予防処置として4月の流行の始まりから2185人にワクチン接種、

		<p>多くの者がワクチン2回接種後に感染したらしい。ゆえに抗ペストワクチンは全員に効いたわけではなかったものの、何件かの不成功があった一方、多数を保護したと推測される。5月31日時点でヨーロッパ人にも現地人にも、行政府、学校、現地人衛兵も監獄も再発なし。中心地では35軒のショップハウスを消毒、閉鎖。全ての住居を白く塗り直し、感染家屋の全てのタイルを張り直した。5月15日以降、ショップハウスでの発生は稀になり、反対に藁小屋で増えた。流行はコムポート周辺に移ったらしい。消毒が効果的と判明。消毒したショップハウスでの再発は2棟のみ。藁小屋の消毒は容易ではない。価値が低いものは焼却。補足策として、感染家屋の住民は衛生パスポートを持たせる。コムポートに寄港する全ジャンクに衛生証明書を与える。日々状況は良くなっている。流行は終わるものと期待。</p>
	19230915	最後は7月7日、コムポートの周辺地域で発生。

ペストは先の2つに比べて報告回数が少なく、各回の発生範囲も限定的であるが、1回あたりの感染者数と死亡者数が大きい。またコムボン・チャームではブノム・ベンに由来する事例が多い。ワクチン接種はコムボン・チャームで1916年、コムポートで1923年の流行から行われている。さらにコレラとペストでは両地域で、死者の弔いによって寺と村内に感染が拡大した事例が報告されている。

### おわりに

カンボジアでは、主要な地方中心地に理事官府が開設されていった1885年以降、景観や社会に大きな変化が起こった。地域の中心地には、理事官府の他、兵舎、監獄、そして学校、病院等、それまで現地に存在したものとは全く異なる様式の、大型の建物からなる官庁街区が出現した。さらに水路・陸路の交通が活発になるにつれて、中心地以外にも都市的な空間が誕生した。都市の現地人街はレンガ造・瓦葺のショップハウスからなり、木造か竹造で植物の葉で葺いた高床式住居からなる農漁村とは景観を異にする。20世紀に入ると近代的な教育や医療の制度が地方にも導入され、少なくともそれらと接点を持った人々には、生活や思考のあり方に変化をもたらした。

理事官府の感染症対策は、都市部・村落部ともに、消毒・隔離、衛生策の勧告、ワクチンがある場合は集団的な接種が基本であり、フランス人理事官・医師－現地人知事－村長という行政の回路を通じて、支配者側から地域住民に対して施されるものとなっていた。その結果コムボン・チャームでは1918年に、この回路から外れたベトナム人住民が天然痘対策から取りこぼされる事例も発生している。また種痘に関しては、植民地医療に先行して地域社会の中に知識や技術が存在したようであるが、それ以外は地域の人々にとって全く新しい実践であったと想定される。建物の消毒方法は都市部と村落部で異なっており、都市のショップハウスでは化学薬品が使用され、村落の木造の建物は焼却された。その他に都市部と村落部で差があるとすれば、理事官府所在地では即座に

医師と診療所に対応を求めることが可能であったのに対し、それ以外の場所では村長－知事を介して理事官府に報告が到達してから、医師あるいは看護師が派遣された点であろう。今回取り上げた3つの感染症のうち、天然痘とコレラは、都市部・村落部を問わず、ほぼ恒常的に地域内に存在していたようである。そして現地人の間では、ひとたび感染すれば高い確率で死亡することがあった。ヨーロッパ人に関しては、コムボン・チャームでコレラとペストによる死者3人の記録があるが、天然痘に感染したという報告はない。

報告書を見る限り、フランス植民地当局が派遣する医師の他に、地域社会の中でヨーロッパ式の医療を実践する医師の姿は見られない。各地区に配置されたフランス人医師は多くても1人であり、理事官府所在地以外に住む大多数の現地人住民にとっては、ヨーロッパの医療技術に直接触れる機会はほとんどなかったであろう。地域で治療の大部分を担っていたのは、報告書中にも見え隠れする在地のクルー（伝統医）たちであったと想定される。住民たちが在来のクルーと比して、新たに中心地から派遣されるようになった西洋医学の医師をどう評価したのかは、現在の史料状況では判明しない。またコムボン・チャームの種痘師を例外として、1929年までの両地域では、クルーたちが近代医療に包摂される路は存在しなかったようである。

#### 引用文献

1. 青山（香川）志保. 1999. 「文明化の手段としての医療－仏領インドシナにおける種痘政策－」『六甲台論集法学政治学篇』46(2). pp.1-15.
2. *Brah Raj Bansavatar*.
3. Duras, Marguerite. c1950. *Un barrage contre le Pacifique* (Collection Folio 882). Gallimard.
4. ヘンベル, サンドラ. 2020. 『ビジュアル パンデミック・マップ：伝染病の起源・拡大・根絶の歴史』日経ナショナルジオグラフィック社
5. INDO-RSC-00356. 1885-1905. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kampot*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
6. INDO-RSC-00357. 1906-1913. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kampot*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
7. INDO-RSC-00358. 1914-1925. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kampot*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
8. INDO-RSC-00359. 1926-1929. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kampot*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
9. INDO-RSC-00367. 1898-1906. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kompong-Cham*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
10. INDO-RSC-00368. 1907-1911. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kompong-Cham*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
11. INDO-RSC-00369. 1912-1918. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kompong-Cham*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
12. INDO-RSC-00370. 1919-1929. *Rapports périodiques, économiques et politiques de la résidence de Kompong-Cham*. (C.A.O.M./Aix-en-Provence)
13. INDO-RSC-25784. 1905. *Instructions de préparations de médicaments et du traitement de maladies en langue Khmère à l'attention des mésroks (Résidence de Kompong Cham)*. (A.N.C./Phnom Penh)

14. 北川香子. 2001. 「ヨーロッパ人の見たアン・ドゥオン王および王都と港」『南方文化』28. pp.177-207.
15. 北川香子. 2005. 「コムボン・チャームにおける医療事業の導入－理事官府定期報告書より」『カルチュール』2. pp.176-193.
16. 北川香子. 2006. 「コムボートにおける医療事業の導入－理事官府定期報告書より－」『カルチュール』3. pp.139-149.
17. 香西豊子. 2019. 『種痘という〈衛生〉：近世日本における予防接種の歴史』東京大学出版会
18. Oversen, Jan & Trankell, Ing-Britt. 2010. *Cambodians and Their Doctors. A Medical Anthropology of Colonial and Post-Colonial Cambodia*. NIAS Press. Singapore.
19. Peyrusset, E. 1880. “Le Chemin de fer de Saigon à Pnom-penh; Section de Tay-ninh à Pnom-penh”. *Excursions et Reconnaissances*. 2-3. pp.119-234.
20. 田崎哲郎. 2012. 『牛痘種痘法の普及』岩田書院
21. 脇村孝平. 1999. 「英領インドにおける「スペイン風邪」(1918年)－なぜインフルエンザの死亡率がそれほど高かったのか?」『経済学雑誌』100(3). pp.90-108.

(本学教授)